

# エイブリズムと差別のあいだの関係性について

第14回障害学会  
2017.10.29 川添 睡

# 発表の構成

## 前半 エイブリズムとディスエイブリズムはどちらが根源的?

導入: 能力と障害と

エイブリズムという語の意味を3つに整理する

問い: エイブリズム (能力中心主義) は文言通り信じられているのか?

「能力の有る/無し」 $\Leftrightarrow$ 「良い/悪い」 $\Leftrightarrow$ 「健常/障害」には一貫性がない

例①: 「能力がある」から先の、扱いが異なる

例②: 失敗と成功が再配置される

(口話法と「剣道の懸り稽古」の自己擁護システム)

例③: インペアメントとディスアビリティの主体がずれる

例④: 「できる」が関わるディスアビリティがある

前半まとめ→ エイブリズムはそれ自身で完結した世界観ではなく

現状常にディスエイブリズムの影響下にある

## 後半 性別 (という身分) が障害を「乗り越える」ことを再考する

## 導入① 「能力」と「障害」と

能力を持っていない、劣っている⇨「障害」？

### エイブリズム /ableism

- ・ 高い能力を持つ方がよりえらい
- ・ 能力という物があればあるほどいい
- ・ 皆有能になるべきだ

世の中で強力 ⇔ 中身と語られている内容が食い違っている？

## 導入② エイブリズム /ableism の意味を分類する

### 1) 障害差別 disableism

障害に対する差別的な価値観  
(+対偶として「健常であること、通常であることが最も素晴らしい」という価値観)

### 2) 能力中心主義 meritocracy

能力があるのは良い事、より有能な方が良い者

### 3) それをこえて

何をする /したという切り口で相手や物事に向き合う態度

## 導入③ Ableismとdisableismの関係とは

### エイブリズムの価値観

シンプルに完結している？

ディスエイブリズムの「根拠」？

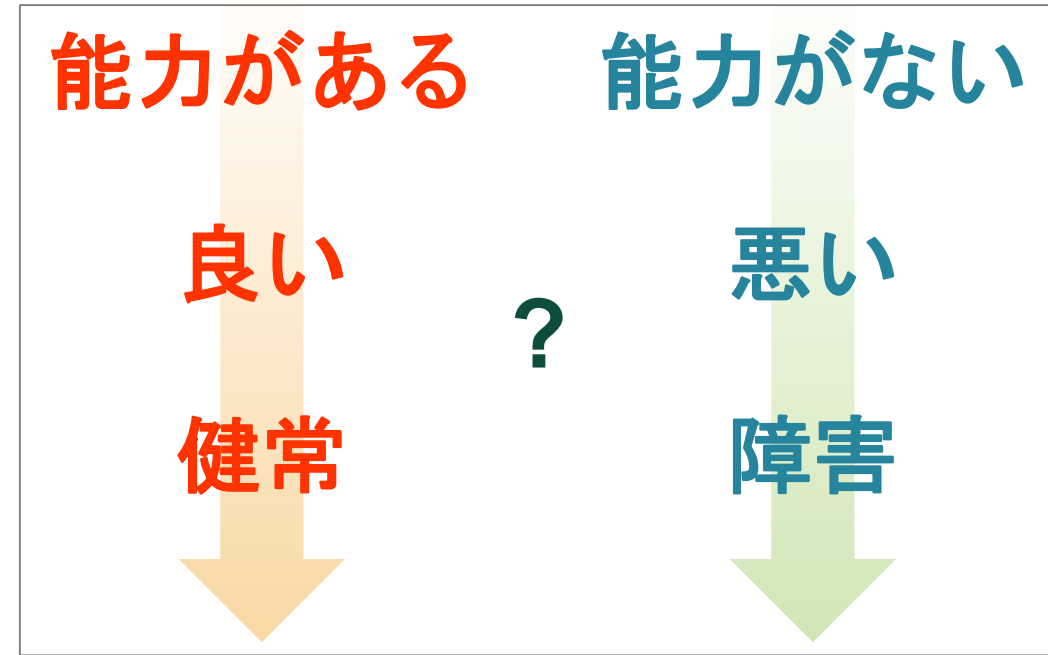
「能力のある/なし」 ⇔

「良い/悪い」 ⇔

「健常/障害」は常に単線的に結ばれるか？

「能力がある=良い」が文言通りには一貫していない4つの例

「能力を持つ」「できる」といった言葉に下線



## 理由① 能力がある (認められる), からあとの処遇が異なる

“知的障害の人は忍耐強いという  
とても素晴らしい長所をもっていて、  
同じ作業をずっとこなすことができます”

>地域別最低賃金を分配されているとは限らない

「なくてもいい」と扱われる能力  
性的な「機能」

活用されても評価されにくい, 実績とされにくい業績  
理論 > 実践 > 翻訳

## 理由②「懸り稽古」論 再び

### 聾教育における「障害」の構築 (口話法の擁護システム)

“結局、一生懸命口話法に習熟するしか道はない。” (略)

“では、「名人」ならば十分な成功をおさめているのだろうか。

そこにもまた抜け出せないロジックが存在する。

すでにその人は「名人」であるが故に、

その「失敗」は「失敗」にはならないのである。” (略)

“「あの先生がやったから、ここまで伸ばすことができた。

ほかの人がやったら、目も当てられなかっただろう」とされ” (略)

“結局、口話法という理念自体は傷つかないのである。”

(金澤 1999)

> 失敗や成功を差別と矛盾しないように配置する仕組み

## 理由③ Impairmentとdisabilityの主体がずれる時

### <寸劇1> 「バスに乗りたい」

(松波めぐみ 障害のある方々の  
劇団サークルの皆さん, 2015)

(~略) あっ, 次のバス来た。

- バス運転士 乗るの？
- 車椅子の青年 はい, 乗りたいです。お願いします。
- バス運転士 一人なの？
- 車椅子の青年 そうなんです。だから, ちょっと手伝ってもらいたくて...
- 運転士 わし, 腰が痛くて...。ちょっと次のバスにしてくれるか。

(バスが発車して去る。)

- 車椅子の青年 えっ, え～。腰が痛いって。そんな理由になるのか。  
今のバスに乗らないと約束に間に合わない。どうしよう。どうしよう。(略~)



## 理由③ Impairmentとdisabilityの主体がずれる時

### <寸劇1> 「バスに乗りたい」

(松波めぐみ 障害のある方々の  
劇団サークルの皆さん, 2015)

(~略) あっ, 次のバス来た。

○バス運転士 乗るの?

○車椅子の青年 はい, 乗りたいです。お願いします。

○バス運転士 一人なの?

○車椅子の青年 そうなんです。だから, ちょっと手伝ってもらいたくて...

○**運転士** わし, 腰が痛くて... ちょっと次のバスにしてくれるか。

(バスが発車して去る。)

○車椅子の青年 えっ, え～。腰が痛いって。そんな理由になるのか。

今のバスに乗らないと約束に間に合わない。どうしよう。どうしよう。(略~)

障害される人は「できない」人 ⇔ 健常者が「できる」人 >誤り

## 理由④ 「できる」ということとdisabilityが結びつくとき

“・子どもの保育所にエレベーターがなく、  
参観日は危険を伴いながら自力で階段を上るか、  
夫にかつがれるのを余儀なくされる。(肢体不自由)”

(村田「女性障害者が受ける様々な事例」)

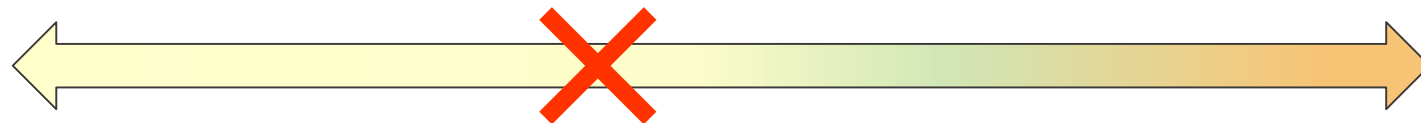
暗黙の期待 ⇔ 介助者と被介助者の性別が逆の場合は？

「夫は男性だから、女性の妻をかついでもらえるだろう」  
当事者が主張していない事柄にも周囲が「説得され」うる

当事者の周囲が「できる人」とみなされた場合、  
当事者は逆に不便な状況に置かれることもある？

## 前半まとめ

不連動



できる (能力がある)  
できない (能力がない)

良い  
悪い

健常  
障害

健常=良い, 障害=悪いは一貫



X 中立の根拠  
理由



エイブリズム

ディスエイブリズム



O 影響下  
方便

## 性別制度という交差点

障害を「解消する」というより「乗り越える」という形でしか対処してこれなかった

自分の意見をしゃべった時

- >男性「あの人ははっきりした主張を持っている」
- >女性「あの人は周囲と協調する気がない」(悪意の積み重ね)

男性という身分の抑圧性を明らかにする作業

その不快さ・苦痛の感覚は、「無力化される感覚」とは異なる

>私は、その違いを信じる。

## 参考文献・謝辞

もしも発表中で紹介した文章等について、引用元の文章等を書いた人やそれに関係のある人が「私の使い方がおかしかった」などと感じましたら、大変すみませんが教えてください (kawazoe.n.aa@gmail.com). 私にはそのやり方について対話に応じる義務があります.

石川准 長瀬 修 (編著), 1999, 「障害学への招待」, 明石書店  
松波めぐみ 障害のある方々の劇団サークルの皆さん, 2015  
「平成 26 年度第 9 回企業向け人権啓発講座」

<http://web.archive.org/web/20170613022950/http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/cms/files/contents/0000180/180436/9kouenroku.pdf>

村田恵子, 「女性障害者が受ける様々な事例」

<http://web.archive.org/web/20170727070005/http://www.pref.kyoto.jp/shogaishien/documents/1347449800400.pdf>

発表の相談に乗っていただいた方々 (名前不記載), ありがとうございました.